

仏法入門

(基礎教学試験教材)

アメリカ SGI 教学部編

目次

はじめに

教学研鑽の喜び

基礎仏法用語

1. 信行学
2. 南無妙法蓮華經
3. 十界
4. 一生成仏
5. 御本尊
6. 信心即生活
7. 宿命転換
8. 難を乗り越える信心

日蓮大聖人の御生涯

創価学会の歴史

池田名誉会長講義シリーズ

1. 上野殿御返事（竜門御書）（大白蓮華 2008 年 3 月号）
2. 法華初心成仏抄（大白蓮華 2011 年 5 月号）
3. 日女御前御返事（大白蓮華 2011 年 12 月号）

創価スピリット 日顕宗の邪義を破す

はじめに

仏法は私たちの人生を実りあるものにできるのでしょうか。祈りを叶えるカギは何でしょうか。南無妙法蓮華経とは何でしょうか。宿命とは何か、それを変えることはできるのでしょうか。この「仏法入門」は、こうしたあなたの質問やその他の疑問に必ずや確かな答えを提供してくれることでしょう。

仏法を研鑽しつつその力強い理念を奉じていくなかに、私たちの信仰が深まり日々の実践が不動のものとなっていくのです。しかし、多忙な日々のなかで教学研鑽の時間をつくるのは容易でないかもしれません。ですから仏法を学ぶことがいかに大切かというインスピレーションに触れることが大切になってきます。そこで、まず冒頭に池田大作 SGI 会長の激励の言葉を紹介することにしました。

池田 SGI 会長は、教学の研鑽を通して得られる“仏法の視点”を理解することによって、いかに日々の生活の中により深い喜びと感謝を見出すことができるかを、実に簡明に説明されています。

本書の 5 つの章は、どこからでも自由に読み進み、また気のおもむくままにジャンプしながら読んでも構いません。各章はそれぞれの内容でまとまっており、いずれも仏法実践への貴重な視点を与えてくれることでしょう。

これらの選択された項目は、新入会メンバーの方々ばかりか、信仰歴の長いメンバーの方にとっても意義深いものであり、本書は以下のような幾つかの目的を念頭において編纂されております。

- * 仏法理念や歴史的な出来事について、より深いディスカッションのためのベースとして。
- * アメリカ SGI の御書学習会や座談会でプレゼンテーションをするための参考資料として。
- * アメリカ SGI が実施する基礎教学試験の正式教材として。

どれほど信仰歴の長い方であっても、本書によって新たな智慧の光を見出し、自他ともの幸せをもたらす偉大な日蓮仏法の世界を探求すべく、一層、求道の努力を重ねていかれるものと信じています。

アメリカ SGI 教学部

池田SGI会長の指導に学ぶ「仏法研鑽」の意義

御書は永遠の勝利の源泉

御書は、希望の源泉です。

御書は、歓喜の音律です。

御書は、勇気の宝剣です。

御書は、正義の旗印です。

御書は、平和の光源です。

御書は、師弟が永遠に常勝しゆくための経典なのです。

日蓮大聖人は、「信力の故に受け念力の故に持つ」（御書1136巻）との天台大師の一文を引いておられる。正法正義を受持することこそが、人間として最極の信念なのです。

民衆が正しき生命哲学を学べば、恐れるものはない。青年が立正安国の信念に立てば、無敵です。

御書を心肝に染め、絶対の大確信に立って前進する民衆のスクラムは、誰も止めることはできない。



学会の教学は「実践の教学」です。目の前の一人に、勇気を贈る。目下の課題を打開する智慧を湧き起こす。そして、仏の生命力を涌現させて、共に大勝利への道を開いていく。そのための御書であり、教学です。

何としても、皆を奮い立たせ、勝たせたい。この強き一念で御書を拝し、率先して祈り、行動していく中で、「随縁真如の智」が滾々（こんこん）と湧き出てくるのです。（「御書と青年」聖教新聞2010年5月26日付け）

最高峰の哲学を心肝に染めよ！

日興上人は「御書を心肝に染め」（御書1618巻）と遺誡された。御聖訓をわが心に染め、肝に銘じていくのだ。生命に刻みつけていくのだ。

ある時、「講義に感動しても、家に帰ると内容を忘れていたのです」と、戸田先生に相談した人がいた。

「忘れてもいいんだよ。大丈夫だから」

先生は笑みを浮かべて、友を励まされた。

「忘れても、忘れても、忘れても、講義を聞いていくと、忘れられない何ものかが、あなたの命の中に残っていくよ。その積み重ねがやがて、あなたの力になっていくよ」と。

大切なのは、日々、粘り強く、学び続けることだ。

任用試験は、生涯にわたる修行の出発点である。

焦る必要など、まったくくない。すぐには、わからないことがあっていいのだ。だからこそ、「ああ、そうだったのか」と心から納得できた喜びは大きい。

（「我らの勝利の大道」聖教新聞2010年11月14日付け）

信心を深めるための教学

強盛なる信心、すなわち御本尊への絶対の「信」。

自行化他の唱題、折伏を実践しゆく「行」。

大聖人の民衆救済と忍難弘通の大精神が脈打つ御書を、心肝に染め抜く「学」。この「信・行・学」のたゆみなき精進こそ、広宣流布を進展させゆく根本の機軸である。

ともあれ、信心は一生であり、その信心を深めるために教学がある。

大事なことは、教学を学ぶなかで、「この信心はすごい」という喜びと確信が深まることである。

朝晩、勤行・唱題に臨む姿勢が変わることである。

悩みや苦難にぶつかった時、御聖訓を思い起こして、負けない「獅子王の心」を奮い起こすことである。

そして、広宣流布の同志と「異体同心」で歩む尊き使命を知り、誇り高く胸を張っていくことである。

（「我らの勝利の大道」聖教新聞2011年9月9日付け）

さあ今日も御書を開こう！

今日も、御書を開き、御書を拝し、御書を学ぶ。

それは、御本仏であられる日蓮大聖人と常に御一緒に、この人生を歩み、戦えるということである。

大聖人は若くして夫に先立たれ、幼子たちを育て上げてきた南条時光の母に語りかけておられる。

「夫れ浄土と云うも地獄と云うも外には候はず・ただ我等がむね（胸）の間にあり、これをさと（悟）るを仏といふ・これにまよ（迷）ふを凡夫と云う、

これをさと（悟）るは法華経なり、も（若）ししからば法華経をたも（持）ちたてまつるものは地獄即寂光とさとり候ぞ」（御書1504鈔）

最も深遠な生命哲学が、最も簡明に説かれている。ありがたい仏法である。

たとえ、いかなる地獄の苦しみの淵にあらうと、わが胸に仏の命を厳然と顕現していける。今いる現実のこの場所で、妙法を唱え抜き、断じて寂光の都を築いていくのだ。絶対に誰人たりとも、自他共に永遠に崩れざる幸福の境涯を開いていけるのだ。

そのための信心である。

そのための教学である。



要するに、教学ができるから偉いのではない。よく知っているというだけなら、世間の知識とどこがちがうのか。

教学ができることと、信心があることとは、そのままイコールではない。これまででも教学を得意にふりかざしながら、退転したり、反逆した愚かな増上慢がでたではないか。

我らの人生の根本目的は、一生成仏であり、広宣流布である。それは「法華経の兵法」をもって、信心一筋で怒涛の中を戦い抜いていくしかないのだ。

偉大な信心の行者、信心の勇者に成長するための教学である。ここをはき違えては、絶対にならない。

戸田先生は、「学問的な研究の教学」と「信心で掘り下げていく教学」があるとされたことがある。

不二の師弟として、戸田先生も私も、「信心で掘り下げていく教学」で戦ってきた。だから学会は勝った。実践のなかで教学を学んだ学会員が堂々と勝ってきたのだ。



今回、一級教学試験を受験する若き友も、講義を担当してくださる先輩幹部の皆様も、本当に大変であろう。

しかし、教学の研鑽は、皆が仏になりゆくための仏道修行である。合否を超えたものだ。この甚深の意義に思いを馳せながら、青年らしく、学会っ子らしく、勇敢に、聡明に、忍耐強く、勝負強く、挑戦していただきたい。

大仏法を学び、行ずる尊い努力に、功德は無量無辺であり、子孫末代まで流れ通うことは、絶対に間違いない。

（「我らの勝利の大道」聖教新聞 2011年9月10日付け）